

粕谷和夫の観察日記。10月4日にクヌギの球形のドングリを配信しました。これは、シラカシのドングリで、先がとがった細長い楕円形です。こちらは今年の春に咲いた花から稔った1年のもので、もうすこし秋が深まると落果します。クヌギは落葉樹ですがシラカシは常緑樹です。

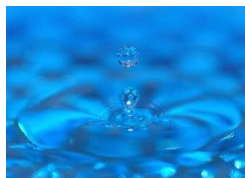
# 紅葉台



# 新聞

第158号  
2024年  
11月30日  
発行人：関谷 孝

## PFAS 問題きほんのき 生活の中で気を付けることは



水が命の源であり、私達の生活になくてはならないものであることは自明の理です。その水がどうなっているのか知ることが重要なことだと思います。先日研修する機会がありましたので報告します。中下裕子さん（環境問題に取り組んでいる弁護士）から話を聞きました。今回は少し不安を感じる内容ですが、しっかり事実を知ることから対策を考えていきたいと思えます。日本では大事な情報は十分伝わっていません。正しく知らないでいることのほうが怖いことだと思います。

まず、PFAS（約一万種類もあるのでここでは代表してこの名称を使います）は、「有機フッ素化合物」であり、水に溶けやすい性質を持っています。熱や紫外線にも強く、水や油もはじく性質があります。そのため私たちの生活にたくさん使われているのです。例えば、防水剤（防水スプレー・傘・レインコート）。表面処理剤（PCコーティング剤（フライパン）。防汚剤（カーペット・カーテン・ソファ）産業用では金属エッチング・航空機・半導体等。

その毒性は、甲状腺疾患・環境ホルモン・発がん性・（特に腎臓、精巣、乳腺）。生殖毒性・不妊・低出生胎児・潰瘍性大腸炎。免疫力低下・コレステロール上昇等。これだけでも大変危険な物質であることが分かります。そのため耐容の摂取量が決められています。例えば欧米では0.03 ng/kg/体重に比べて日本は、20 ng/kg/体重です。日本は世界に後れを取っているのは明らかです。それは、中下さんに言わせると「政治が国民の健康に無関心であるからではないか。もっとわたしたちが声を上げていかなければいけないのでは」とのことでした。

PFASは今や日本のあちこちで見つかっています。それは大きく分けると①米軍・自衛隊基地の近く。②産廃施設。③PFAS製造工場・使用工場です。地域では岡山県吉備中央市が多く、住民の血中濃度が171.2 mg/ml ありました。府中市国分寺市の住民血液検査も話題になりました。ここでは井戸水を長年にわたって使っていることも原因になっていて、畑などにも影響が出ています。

ストックホルム条約ではPFAS、PFOSは、使用禁止になりました。EUはすべてのPFASを段階的に禁止しています。日本ではまだまだ関心が低く国民が知るとパニックを起こすとの理由で報道されていません。そのことの方が怖いことです。

PFASの代替用品の開発は勿論ですが、その発生原因となっているところの規制が必要です。そのためには私たちの意識を高め、声を上げ、政治に届けることが必要と

力説していましたが、全く同感です。特に驚いたのは学校や病院など大量に水を使う施設は、専用水道＝井戸水を使っていることが多いそうです。その実態や水質については分かっていないことが多いようです。今後は、**発生源を究明し発生源をたつこと。住民のばく露の回避。健康管理の継続。PFASの規制強化が求められるのでは**と提言しています。私たちも日用品の使用に気を付けなければなりません。

中下さんは、19998年かつて日本でごみ焼却場のダイオキシン問題が大きく取り上げられたことから環境汚染問題に取り組んできました。今ではゴミの問題は焼却場の改善やごみの分別などによりずいぶん改善されてきました。今また、同じように水の問題を明らかにし、国民の声で改善していきたいとこのような学習会を積極的に行っています。子供たちに残す未来を今の私たちが改善していかななくてはならない問題ではないかと思えました。まずは、事実を知ることから始めたいものです。

主催：東京消費者団体連絡センター

中下裕子 NPO 法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議（JEPA）代表理事

有害化学物質から子供を守るネットワーク（子どもケミネット）代表世話人  
**\*11/25 岡山県では公費による住民の血液検査をしたと報道有 粕谷和夫の観察日記**



チョウに関心のないかたには申し訳ありません。この写真は絶滅危惧種ですが、最近復活の兆しが出てきた**ツマグロキチョウ**です。その理由は幼虫の食草カワラケツメイ写真下)の復活にあります。場所は多摩川の河原（八王子市）。**カワラケツメイ**は河川敷が生育場所です。復活の原因はよくわかりませんが、外来種の植物がはびこる河原にこの植物とそれを食べるチョウが復活してきたことは嬉しい話です。



**キバナアキギリ**が群落となって清水入緑地（八王子・多摩ニュータウン）の雑木林で開花していました。園芸種の赤い花のサルビアと同じ仲間であるが、こちらは野生種である。学名「Salvia nipponica」で、まさにその名も「日本のサルビア」です。蛇が口を開いて舌を出しているような花、蛇の舌のように見える雄しべは、花にもぐりこんだハチの背中に花粉を付ける役割があります。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。